

2016年夏期 グアム語学研修報告書

University of Guam
English Adventure Program
2016.9.4 - 9.18



秋田県立大学 国際交流室

2017年2月

2016 年度グアム大学語学研修 概要

【本研修の概要と特徴】

グアム大学 (University of Guam, UOG) が提供する English Adventure Program (EAP) は、グアムの自然や文化を体験しながら英語能力を向上させることを目的としたプログラムである。本学ではこのうち 2 週間のプログラムに参加し、ESL (English as a Second Language) の講義やビーチアクティビティ、歴史遺跡ツアーに参加した他、本学独自の取り組みとして次のような活動を取り入れた。

1. 講義の聴講と研究施設訪問

グアムの歴史や農産業、環境問題に関する講義を聴講するとともに、屋外での体験活動を含む研究施設訪問を行った。聴講した講義と講師、訪問先研究施設と活動内容は以下の通りである。

〔講義〕 (実施日順)

- ・グアムの地理と歴史、考古学 (Hiro Kurashina ミクロネシア研究所名誉センター長、Rebecca Stephenson 名誉教授)
- ・グアムの農産業と環境問題 (Mari Marutani 教授)
- ・グアムの海洋資源と環境汚染 (Center for Island Sustainability 学生インターン)
- ・グアム大学青少年育成センターの取り組み (4H)
- ・ミクロネシアの考古学 (Judith Amesbury 講師)
- ・グアムと日本を結ぶ歴史と観光 (Fred Schumann 教授)

〔研究施設訪問・体験学習〕 (実施日順)

- ・UOG Triton Farm : 養殖所・農場見学とアクアポニックスでのレタスの苗植え
- ・UOG Center for Island Sustainability : シュレグダー用紙を利用した植物の根覆い
- ・UOG 4H : 伝統漁業技術の体験
- ・UOG Marine Lab : 海洋生物に関する展示品の説明
- ・UOG Isla Center for the Arts : 企画展示 International Exhibition of Contemporary Printmaking の鑑賞
- ・War in the Pacific National Historical Park in Guam : 太平洋戦争に関する展示の鑑賞

2. 研究レポートの作成

本学の理念である「持続的社会的実現」に向けて、グアムの持続的開発に関する事例から下記 4 つのテーマについてグループごとに事前調査を行い、グアム内での聞き取りや資料収集を通じて英文レポートを作成した。

研究課題テーマ : ①食糧自給 ②食品流通 ③環境汚染 ④自然エネルギー

3. 小学校での日本文化プレゼンテーション

グアム大学近隣に位置する Captain Henry B. Price Elementary School を訪問し、4 年生及び 5 年生

の各 5 クラスにおいて、日本文化紹介を英語で行った。

4. グアム大学での日本文化プレゼンテーション

グアム大学において、プログラム担当者及び国際交流サークル International Friendship Club のメンバーを対象として、日本文化紹介を英語で行った。

5. 滞在先コンドミニアムでの共同生活

滞在先では 4 人 1 室で共同生活を送り、朝夕は共同キッチンを利用して自炊した他、グアム大学学生を含めた自主勉強会や交流会を行った。

本学のグアム大学語学研修は今回で 5 回目となり、すでにグアム大学との間に培われた実績がある。グアム大学と本学の協働によってこれらの活動を取り入れることにより、英語力だけではなく、調査やプレゼンテーションといったアカデミックスキル、グループワークスキル、異文化コミュニケーション能力の向上をはかった点が、本研修の特徴である。

【応募・申し込み】

4 月上旬に国際交流室から全学部生に向けて参加募集を通知。

16 名の募集定員に対して合計 18 名（秋田キャンパス 6 名、本荘キャンパス 12 名）の応募があった。

参加希望者は、動機や目的を英語・日本語で記入して提出し、その後の選考面接では英語による質疑応答と自己アピールを行った。

【渡航前オリエンテーション】

・第 1 回オリエンテーション（2016 年 6 月 4 日於秋田キャンパス）：プログラム概要の説明、英語での自己紹介、グループ決め、渡航準備に関する説明（パスポートの取得、海外旅行保険加入、費用の支払い方法等）

・第 2 回オリエンテーション（2016 年 7 月 16 日於本荘キャンパス）：研究テーマの事前調査発表、役割分担決め、渡航準備に関する説明（出入国審査、現地での生活、危機管理等）

【期間】

2016 年 9 月 4 日（日）～9 月 18 日（日） 14 泊 15 日

【滞在先】

レオパレスリゾートグアム（Leo Palace Resort Guam）

住所：221 Lake View Drive Yona, Guam 96915

【費用】（1 人あたり）

1) 個人負担 10 万円

2) 大学の助成 国際航空費（成田ーグアム往復）

3) その他費用（個人負担）

- ・パスポート申請費用
- ・海外旅行保険
- ・国内旅費
- ・現地食費 等

【旅程】

9月4日 14：00 成田空港第一ターミナル集合

16：55 成田発 デルタ航空 290 便

21：40 グアム着（現地時間）

9月5日～17日 語学研修

9月18日 11：45 グアム発 デルタ航空 634 便（現地時間）

14：35 成田着 解散

【引率者】

総合科学教育研究センター テリー・ナガハン教授（9月4日～9月11日）

総合科学教育研究センター 桧山晋教授（9月10日～9月18日）

総合科学教育研究センター 江口真規助教（9月4日～9月18日）

国際交流室 正木康子（9月4日～9月18日）

【研修報告会】

11月17日（本荘キャンパス）、11月25日（秋田キャンパス）において、参加メンバー全員による研修報告会を行った。

【参加学生】

キャンパス	学科	学年	氏名	
Honjo 本荘	Electronics and Information Systems 電子情報システム学科	4	Yuki Sato 佐藤 悠樹	
	Architecture and Environment Systems 建築環境システム学科	2	Yoriko Suzuki 鈴木 順子	
			Mizuki Takahashi 高橋 瑞	
			Sakiko Yashima 八島 咲子	
	Management Science and Engineering 経営システム工学科	1	Hiro Ito 伊藤 礼	
		2	Kazuki Yasui 保井 一樹	
			1	Haruka Ogata 尾形 春香
				Tetsuya Okinazou 翁像 哲也
				Yuji Kudo 工藤 優之
	Ryota Nishizaki 西崎 椋大			
Satoshi Yazaki 矢崎 智史				
Akita 秋田	Biological Environment 生物環境科学科	2	Atsuya Suzuki 鈴木 厚哉	
		1	Kana Sasaki 佐々木 佳音	
	Agribusiness アグリビジネス学科	3	Minami Asakura 朝倉 みなみ	
			Natsumi Tsunoyama 角山 夏実	
		2	Kanako Sasaki 佐々木 佳奈子	

【引率者】

キャンパス	所属	氏名
Akita 秋田	Research and Education Center for Comprehensive Science (RECCS) 総合科学教育研究センター	Assistant Professor/Maki Eguchi 助教/江口 真規
		Professor/Terri Lee Nagahashi 教授/テリー・リー・ナガハシ
Honjo 本荘		Professor/Susumu Hiyama 教授/桧山 晋
Akita 秋田	International Exchange Office 国際交流室	Yasuko Masaki 国際交流専門員/正木 康子

2016年グアム大学語学研修 行程表

【プログラム行程：第1週】

DAY1 9月4日(日)	
14:00	成田空港 集合完了
16:55	成田空港 出発
21:40	グアム国際空港 到着・ホテルチェックイン
DAY2 9月5日(月)	
10:00-	スーパーマーケットへ食料買い出し等
DAY3 9月6日(火)	
9:00-11:30	ウェルカムレセプションとプレイスメントテスト
11:30-13:00	キャンパスツアーと歓迎昼食会
13:00-15:30	英語講義：ESL
DAY4 9月7日(水)	
9:30-10:30	グアムの地理・歴史・考古学(特別講義：Dr. Kurashina & Dr. Stephenson)
10:30-12:00	英語講義：ESL
12:00-13:00	昼休み
13:00-15:00	グアム大学生とカンパセーションパートナー
15:00-16:00	フラダンスレッスン
16:00-20:00	チャモロビレッジ ナイトマーケット見学
DAY5 9月8日(木)	
9:30-11:00	英語講義：ESL
11:00-12:00	特別講義：グアムの農業と環境問題 (Dr. Marutani)
12:00-13:00	昼休み
13:30-16:00	グアム大学附属トリトン農場 作業体験
DAY6 9月9日(金)	
9:30-11:00	英語講義：ESL
11:00-12:30	特別講義：グアム島の海洋保護 (CIS インターンスタッフ)
12:30-13:30	昼休み
13:40-16:00	CIS (Center for Island Sustainability) 訪問と実習
19:20-23:00	プログレッシブディナー・反省会
DAY7 9月10日(土)	
11:00-16:00	野外活動：タモンビーチでカヤック、シュノーケリングレッスン
DAY8 9月11日(日)	
7:00-9:00	デデド朝市訪問
10:00-	自由行動

【プログラム行程：第2週】

DAY9 9月12日(月)	
9:30-11:00	4H 講義・実習
11:00-12:00	海洋研究所見学
12:00-13:30	昼休み
13:30-15:00	英語講義：ESL
15:00-16:00	図書館学習
DAY10 9月13日(火)	
9:30-10:45	グアム大学付属イスラ美術館見学
11:00-12:00	特別講義：考古学 (Ms. Judith Amesbury)
12:00-13:00	昼休み
13:00-15:30	太平洋戦争記念館見学
DAY11 9月14日(水)	
9:30-12:00	プライス小学校訪問 (県大生によるプレゼンテーション)
12:00-13:00	昼休み
13:00-20:00	グアム島見学ツアーおよびチャモロビレッジ訪問
DAY12 9月15日(木)	
9:30-11:00	英語講義：ESL
11:00-12:00	特別講義：グアムの観光産業 (Dr. Fred Schumann)
12:00-14:00	昼休み、プレゼンテーション準備
14:00-15:00	修了式および日本文化プレゼンテーション
15:00-17:00	スポーツアクティビティ
DAY13 9月16日(金)	
9:00-16:00	野外活動：カルチャービーチデー (イナラヤンビーチ)
DAY14 9月17日(土)	
	自由行動
18:00-22:30	フェアウエルディナー・反省会
DAY15 9月18日(日)	
9:00	ホテルチェックアウト
11:45	グアム国際空港 出発
14:35	成田空港 到着・解散



2016 年グアム大学語学研修 引率者レポート

総合科学教育研究センター 助教 江口 真規

今回、引率者として初めてこのプログラムに参加したが、研修の間自身が初めて海外を訪れたときのことを思い出した。そのときの経験や友情が、いかに自分を変え現在の姿を形作っているのかを考えたとき、そのような“eye-opening”（目を開かせる）な経験を一人でも多くの学生達に共有してもらいたいという思いで臨んだ。実際に参加者が何を見て何を学んだのか、一人一人の報告にお目通し頂ければと思う。ここでは、英語教員としての引率者の視点から、今回の研修を振り返りたい。

まずはこのプログラムが、単なる語学研修に留まらず、アカデミックな内容を数多く含んだものであることを強調しておきたい。英語で受講した講義はグアム研究で第一線の講師陣によるものであり、また、ほとんどの学生にとって英語で研究レポートを作成するのは今回が初めてであった。参加者は IFC のメンバーが実際に書いたレポートのサンプルを見て書式・構成を学んだうえで、日本で事前に調べた情報が正しいのかどうか検証すべく、聞き取り調査や資料収集を行った。ライティング力を高めるにはまだまだ多くの訓練が必要であるが、今回の研修をきっかけに、研究に向かう真摯な姿勢、既成事実を批判的に検討する姿勢が重要であることを学んだのではないだろうか。

また、スケジュール後半に組み込まれた小学校訪問とグアム大学でのプレゼンテーションでは、学生自らが日本文化について英語で発表を行った。これにより、ESL の授業では、単に学生として英語を聞くだけではなく、教員がどのような英語を用いているのかを常に意識して取り組んでいた。ESL の講義では文法や語彙などの基本事項を教えながら様々なアクティビティが取り入れられており、本学の英語教員としても授業展開を考える上で参考にさせて頂いた。

このプログラムでは、全体において、このようにインプットとアウトプットの活動がバランスよく配置されている。学生達は皆これらの活動に驚くほど真面目に取り組んだ。参加者には、プログラムの最後で涙ながらに手にした修了証を大切に保管して、この研修を 16 名全員で終えたことに自信を持ってもらいたい。

グアムの主要産業は観光であるが、今回の研修を通して、そのホスピタリティ精神にも触れることができた。グアムでどのように優しく受け入れられ、安全に過ごすことができたか。その背後には、グアム大学のプログラム担当者、講師、IFC のメンバー、バスドライバー、ホテルの従業員の方々など、プログラムを支えていただいた多くの人の尽力と思いやりがある。参加者には、今回の研修で得た感謝の気持ちを、これからの行動につなげていくことを期待している。例えば、海外からのゲストが秋田に来たとき、どこに行き、どう接すれば喜んでもらえるだろうか。グアムの経験を日本の生活でも生かして行ってほしい。

最後に、引率者として、このプログラムの計画・運営に携わった全ての人々にお礼と感謝の気持ちを申し上げます。



グアム語学研修を終えて

電子情報システム学科 4年 佐藤 悠樹

自分は将来、大学院に進学し、その後は世界で活躍できる人間になりたいと考えていました。そのためには英語は必要不可欠な要素でした。英語は苦手だったため、自分を追い込むべく、この企画に申し込みました。その結果、英語の技術だけでなく、様々な経験を得ることが出来ました。

グアムでは、UOGの学生や、現地の人々と積極的にコミュニケーションを取ろうと頑張りました。わからない単語や表現があり、困ることがたくさんありました。しかし自分の知っている知識を使い自分の意志を伝えようとしました。何度か自分の思うようなことは伝えられなかったことがありましたが、ほとんどは自分の意見を相手がかみ取ってくれたことは嬉しかったです。正直なところ、英文法が不正確なことが多々ありました。また、単語だけで文になってない場合もありました。それでもおおむね伝わり、英語でコミュニケーションを取ることに恐怖心が全くなくなりました。しかし、相手の言っていることが聞き取れないことが多かったです。早すぎて聞き取れなかったり、知らない単語が多かったりと課題が見つかりました。この点に関しては帰国してから課題克服に向けて勉強したいと考えています。またコミュニケーションにおいて大きな発見がありました。UOGの学生とスポーツをする機会がありました。この時も不正確な英語を話していたと思います。言語が違えと一緒にやることで気持ちを通じることがありました。

自分はグアムの食文化にも興味がありました。UOGの学食は毎日が楽しみでした。驚きだったのはひとつの皿に全部の食材が入って出てきたことでした。日本とは違い分ける文化がないことには衝撃を受けました。また日本に比べ、バランスが取れた食事とは言い難かったです。このような経験ができたのも貴重な経験でした。また外食をしたときのコーラのサイズが大きすぎてびっくりしました。本場でありハンバーガーがとておいしかったので満足しています。

太平洋戦争の博物館に行く機会がありました。そこでかつて日本がグアムを占領していたことを改めて知りました。現在、かつて日本が占領していた韓国とは不仲になっています。また占領されていた沖縄とアメリカも良好な関係とは言い難いです。それなのにこんなに日本を受け入れてくれているグアムの人々には感謝の言葉しかありませんでした。



今回の経験は自分の人生で最高の財産になったと考えています。この経験は将来絶対役に立つと思います。今は英語に対する興味がすごく湧いています。このまま英語学習を頑張り TOEIC の点数を上げたり、海外旅行に行ったりと様々な目標が見つかりました。この目標を達成できるようにこれから頑張っていこうと思います。そしてまた、グアムに行き交流してくれた現地の皆と再会したいです。



グアム語学研修 個人レポート

建築環境システム学科2年 鈴木 順子

グアムでの2週間は、海外に行くのが初めての私にとって全てがとても貴重な体験でした。初めての英語圏での生活に、高校の頃から英語が苦手だった私は不安がありました。しかしグアムは日本人観光客が多いためか、グアムの人たちは日本人の私たちにすごく優しくかったです。お店の店員さんやバスの運転手さん、英語やダンスを教えてくれたエヴリン先生や IFC (International Friendship Club) のメンバーなどたくさんの人の優しさに助けられた語学研修でした。

今回の語学研修のなかで私が印象に残っているのは、Historical Island Tour です。私がこの語学研修の中でやりたかった一つとして、グアムの歴史を学ぶというのがありました。講義を聞くだけではなく、実際に見学したり体験したりできたので、印象に残っています。このツアーではグアム島内をバスで周りながらグアムの歴史について学びました。IFC のメンバーも一緒に周り、各所でその場所に関する歴史について解説してくれました。私は、グアムと日本との関係は、ここ最近日本人が観光に訪れるようになってからできたものだと思っていたのですが、太平洋戦争の戦場だったということを知って驚きました。グアムは一度、日本の領土になっていたということが衝撃的でした。それ以外にもマゼランが来航したとされる港や、先住民の民家に使われていたラッテストーンがある公園などに行き、それに関する歴史を学ぶことができたので、とても興味深い経験ができました。

また、日本にはない文化を実際に体験できたのも印象に残っています。例えば、飲食店やホテルのベッドメイキングを頼む時などでチップを払うことが印象的でした。チップの概念は外国ならではのことで、初めは慣れずに戸惑っていました。しかし引率の先生方にチップの払い方やどんな時にチップを払うべきなのかを教えていただき、そのような海外ならではの体験をすることができました。さらに、食文化の面でも日本とは違った文化を体験できました。語学研修中は部屋ごとに自炊をしたので、地元のスーパーで買い物をする機会も多くありました。地元のスーパーもやはり日本とは大きく違っていました。野菜がほとんど量り売りされていたり、お肉やジュース、冷凍食品の大きさもすごく大きかったり、シリアルやお菓子の種類がすごく多かったりと、ここでもアメリカならではの文化を体験することができました。

今回の語学研修で私はもっと英語に対して積極的になろうと思うようになりました。グアムで2週間

生活して、日本人観光客が多いグアムの人々が日本語を理解しようとするように、外国人観光客が多い日本でも、もっと英語を話すことに対して積極的にしなければいけないと感じました。日本人はどうしても英語から逃げがちです。なので、私は今回の語学研修での経験を活かし、もっと積極的に英語で会話をできるように頑張りたいと思いました。この語学研修は私にとって、かけがえのない人生の糧となったと思います。





グアム短期留学 2016 個人レポート

建築環境システム学科 2年 高橋 瑞

グアム短期留学についてのメールが来たとき、今年の夏休みは何か大きいことをしたいと思っていた私は、すぐに応募を決めた。英語の面接に受かり、グアム行きが決まったときはとてもうれしかった。将来は建築の仕事に就くことが夢なので、知らない世界をみて自分の視野を広げたいと思っていた。しかし、私は中学までは英語が得意だったが、高校ではさっぱりで、大学に入学してからも英語の講義にはあまり身が入らなかった。そのため、現地で英語が聞き取れないのでは、という不安があった。私は高校でボストン、フロリダへ行ったことがあるが、現地の人々の説明を聞き取れなくてもどかしく思った経験がある。同じようなことを繰り返して中身の無い研修にしたくないと思った。しかしグアム大学の人たちは語学研修の学生を何度も受け入れているからか、ゆっくりと簡単に話してくれた。そして、日本語を専攻している学生が多く、昼休みにカフェテリアでつたない英語で会話しても（日本語をたまに交えても）理解してくれたため、楽しく会話しながら英語を学ぶことができた。

大学での英語の講義は、エヴェリン先生によってとても楽しく行われた。エヴェリン先生の講義は、ただの座学ではなくゲームや歌で参加型の講義だったためみんな終始笑顔だった。文法を中心とした内容ではなく、**b** と **v** の聞き取り、アドバイスの仕方など、「使える」英語を教えてくださいました。また、たまにテストがあるので、ホテルでルームメイトと復習するなど緊張感をもって取り組んだため、より身についたと感じた。

英語以外の講義で印象に残っているのは、観光学の講義だ。グアムでは観光業が中心で、その観光客の 90% は日本人である。グアムやハワイには貧民が多く、その理由は観光客によってもたらされるお金はほとんど大国が吸収してしまうからということだった。現に私たちが宿泊したホテルも日本の会社のものだ。そのことを知って私はとても悲しくなった。そのためグアムの人たちは一村一品により地域の活性化を図ることが必要だ、ということだった。グアムの人々の温かい笑顔と美しい海にもてなされ、彼らの利益につながらないのでは不公平だと思った。

また、太平洋戦争についての博物館や、実際に戦争が行われた場所へも行った。私はグアムでの戦争についてよく知らなかったのが、大変衝撃を受けた。日本がグアムの人たちにした仕打ちはあまりにも大きすぎた。美しい海と島でそれほどむごいことが起きたということ信じられなくて、たくさんのことを考えた。そして広島、長崎への原爆を積んだ B-29 がグアムのあるマリアナ諸島から飛んだということも初めて知った。



この二週間は非常に有意義で、素晴らしい時間だった。「伝える」上で大切なのは言語が 1%、他は表情、人間性、コミュニケーション能力なのだという江口先生が最後に話してくださいました言葉にとっても納得した。話したことのない人たちと二週間自炊生活をし、英語だけでなく様々なことを学び、グアム大学の学生と会話することによって言語能力以外の部分も成長できたと思う。



グアムでの体験

建築環境システム学科 2年 八島 咲子

私が今回の語学研修に参加した理由は、海外で生活する経験を通して、日本と違う文化や会話の中で使われる英語を学びたいと思ったからです。しかし、実際にグアムで生活すると、得られたことが考えていたよりもたくさんありました。

主に私たちは、グアム大学で行動する時間がほとんどでした。そのため大学生と交流する機会が多く、英語を使って会話することができました。私は英語が苦手なので、彼らの話したことを聞き取ることばかりで、相手を困らせてしまうことがよくありましたが、彼らはそんな時でも諦めずに会話に耳を傾けてくれたので、グアムの人はとても親切だなと感じました。また英語の授業では、日本での授業と違って英語しか使われないため、最初は難しかったのですが、ゲーム形式になっていたり、先生が一人一人に英語でフォローしてくれるので、とても刺激的で楽しい授業をうけることができました。他にも考古学や海洋学の講義もうけることができました。スライドの文字が全て英語なので理解するのに苦労しましたが、頑張ってノートをとっていました。

研究課題では私は4つのテーマの中から **Food distribution** (食品流通) を選びました。このテーマについて現地で分かったことは、グアムのスーパーの雰囲気です。意外と日本食が置いてあることやスーパーマーケットごとに個性があることに気がつきました。また課題の内容を調べるためにグアム大学の図書館で資料探しをしたのですが、その時に日本と違うなと感じたところは、図書館にいる学生たちがとても静かだったところです。グアム大学の学生の真面目な一面を見て驚きました。さらに図書館はとても広く設備が整っていました。

他にもプログラムの一環としてトリトンファーム (**Triton Farm**) に見学に行きました。そこではレタスの水耕栽培や飼育されている多くの鶏、様々な植物 (バジル、パンの木、フラダンスの衣装に使われる草、パイヤ、エッグフルーツ) などを見ることができました。様々なものを見ることができましたが、中でも特に印象に残ったのがエコフィードです。エコフィードとはグアムのレストランの残飯やカボチャ、ココナッツを利用して餌をつくる仕組みです。私は捨てるはずのものも利用して餌づくりに生かすことが素晴らしいと感じました。実際にエコフィードに用いる機械も見ることができました。

観光の一環として、休日には **UOG** の学生とプライベートビーチに行きました。そこではカヤックに乗ってきれいな海の上を漂うという貴重な体験をしました。またそれだけではなく、現地の人々の文化を実際に体験することもできました。具体的には、ヤシの木の草を裂いて冠になるように編み込んだり、ココナッツの実の中

の刺身の部分を粉上にしてフライパンで焼いてつくるココナッツキャンディーを食べました。グアムでしかできない体験がたくさんあったので良かったです。

グアムで2週間生活することによって、私はグアムの人々の温かく、気遣いのある性格を知ることができました。現地に行くことでしか体験できないこともあったので、私は学んだことを自分の将来に生かしていきたいと思いました。

Thank you!





The Memory of Guam

建築環境システム学科 1年 伊藤 礼

私はグアム語学研修に自分自身の英語の向上と異文化交流をもとめて参加しました。それは結果から言っても満足なものでした。

グアムは日本とはとても違った場所でした。例えば車が右側通行であることや、言語が英語であることなど様々です。ただの日常が様々な発見に満ちていました。

グアムについて最初の1週間くらいは話し相手の英語が聞き取れなくて、聞き取れても上手く英語が話せなくて返せないことがとてももどかしかったです。それでもなんども喋っていると少しずつ聞き取れるようになっていきました。それでもやはり、自分の英語力が足りなくて上手く返せないことは多かったです。ジェスチャーを交えて話せば通じないこともなかったけど、いまいち伝わらなかったことが悔しかったのを今も覚えています。グアム大学では言いたいことを一生懸命伝えようとすると、グアム大学生は耳を傾けて真剣に聞いてくれました。グアム大学生はすごく積極的で明るく、彼らと過ごす時間はすごく楽しいものでした。彼らが私に何度も言ってくれた”Don't be shy”という言葉がとても自分の背中を押してくれた気がします。その影響か自分も積極的に話しかけられるようになったと思います。これからもこの言葉を思い出して、恥ずかしがらずに積極的になれたらいいなと思います。

グアム大学では英語の勉強の他に、理系の大学では普段受けない考古学などの様々な分野の講義を英語で聞くことができ、とても勉強になりました。

また、ホテルでは2週間友達と同じ部屋で自炊した生活がとても貴重な経験になったと思っています。みんな疲れて部屋でだらけている時も誰かがご飯を作ったり洗濯機を回したりして、助け合って2週間特に喧嘩などもしないで過ごせたので、ルームメイトにはとても感謝しています。

小学校で日本文化を紹介した時は、自分の英語が上手く伝わらない時、一人の小学生が理解して言い換えてくれて助かった時もありました。また、グアムの小学生は質問するとみんな積極的に発言してくれて、小学生の頃からすでに積極的なのかと驚かされました。

週末に行ったアウトレットやビーチ、平日に行ったスーパーマーケット、お祭り…そのどれもが日本とは違って驚きでした。休みの日はシュノーケリングやカヤックなどのアクティビティをしてグアムを体で体験できたこともいい経験でした。スーパーマーケットはすごい量の肉や牛乳、アイスがあってグアムもアメリカ領なだけあるなと思いました。それとは逆に見たことのない南国の魚や野菜、果物をみてアメリカ領ではあっても南国に位置していることがスーパーの食材を見ているだけで伝わってきました。お祭りの屋台で店員の人に対して英語で値引きが出来たのは、個人的に嬉しかったです。

本当に沢山の人の助けられて終えることが出来た2週間でした。グアムで助けてくれたUOGの学生、引率の先生、一緒に行った仲間たち、現地の方々にはとてもとても感謝しています。

グアムで助けてもらったように、今度は自分が日本で困っている外国人を助けられるといいなと思いました。

そして、これからは今まで以上に英語を勉強しようと決心しました。

いつか、グアムで出会った人々とまた英語で会話をしたいです。本当に濃密な2週間でした。





成功と失敗

経営システム工学科2年 保井 一樹

この語学研修に参加しようと思ったのは外国の空気を感じてみたいと思ったからです。日本では味わえないような経験をしたいという目的がありました。言語、文化、気候などその他様々日本とは異なります。そんな外国という未知なる土地に大きな不安と期待を持ち、語学研修を迎えることとなりました。グアムではやはり予想していたように言葉の壁に当たりました。言いたいことを言えないもどかしさでいっぱいでした。しかし、グアム大学の学生は私の話に聞く耳を持ってくれました。言いたいことを確認されたり、何回も聞き直したりしましたが、なんとか会話ができると実感しました。会話には自己の知識以外に相手に伝えようとする気持ちが大切だと感じました。そして、その気持ちがあれば次第に身体まで動くようになっていくことを身をもって感じました。初めは失敗するのを恐れなかなか話せなかったものの、大学での講義を受けることやIFC (International Friendship Club) のメンバーと話していくうちに積極的に話せるようになりました。外国語を話すことに慣れることが一番上達する上で重要な事だと感じました。うまく相手に伝わり成功したと思えた時にはとても嬉しく、うまく相手に伝わらなかった時には悔しくなりました。英語を上達させるには成功と失敗の連続なのだと改めて実感しました。

プログラムの一環として小学校を訪問しました。そこでは、折り紙を披露したことと簡単なゲームを行いました。元気いっぱいの子も達ばかりでした。子ども達だけでなく企画した私たちの方まで楽しませていただきました。発達段階の発音であったためとても聞き取りにくかったのが一番印象に残っている事です。子ども達に限らず、多くの講義を聴き、多くの人と話す中で言葉の聞き取りやすさが違うことに苦労しました。

グループでの研究や課外活動ではグアムを深く知るきっかけになりました。私たちのグループは自給自足について調査し、日本と比較することで長所や短所が見えてきました。問題点が出てきたときには疑問を持ち、解決への糸口を考えました。課外活動ではココナッツキャンディー作りや髪飾り作りを体験することができました。また、講義の終わった後にはチャモロダンスを習いました。私の踊りがあまりにぎこちなくその場にいた全員に笑われたのもいい思い出です。

今回のグアム語学研修を終え、経験したことを糧に今後の英語の学習を頑張っていきたいと考えています。グアムの地で感じたことは言葉では表せないくらい多く大きくそれらをいつか生かせるようにこれからの大学生活を大切に送っていきたく思います。

ありがとうございました！！グアム！APUメンバー！そしてサポートしてくださった全ての方々！感謝しています！





グアム研修で得られたもの

経営システム工学科1年 尾形 春香

私は、この研修で、英語力をつけるだけでなく、様々なことに気付き学ぶことができました。その中でも特に印象に残っていることを、以下に紹介していこうと思います。

一つ目は、現地の方々の気さくで大らかな人柄です。私が最初に人柄の違いで驚いたのは、グアム大学でのオープニングセレモニーで、グアム大学の学生が私たち一人一人に話しかけ、英語でのコミュニケーションをはかっていたことです。私たちが上手く英語が使えなくても、正しい文になっていなくても、笑顔で相槌をうち、冗談を言って笑わせてくれました。その時に、緊張や不安が少し軽くなったのを覚えています。他にも、休日の自由行動で、間違ったバスに乗ってしまった時に、私たちが焦っているのを見て、バスの運転手さんが心配して声をかけてくれました。その運転手さんは、正しいバスの種類やバス停の場所を教えてくれただけでなく、間違っただけの運賃を払わなくて済むように手配してくれました。私たちのせいで時間を取らせたにも関わらず、終始笑顔で対応してくれた運転手さんは、本当に思いやりのある方だなと感動しました。

二つ目は、英語を話すことの難しさです。授業やレクチャーで先生が話している内容が分かり、理解し、それに対しての自分の考えが浮かんでも、それを英語で正しく伝えることは想像以上に難しいことでした。しかし、難しく感じるのは、単に自分の実力不足であるため、もっと留学前に勉強しておくべきだったととても悔しく思いました。私が今回の留学で話せた英語は、初歩的な短文か、単語のみでした。それでも、言葉に出せば、全てではなくとも伝えることができるし、コミュニケーションをとることができます。グアム大学や現地の方々は、つたない英語であっても聞き取って会話をしようとしてくれます。英語を話すことは難しいですが、上達させるには言葉に出すことが大事であると学ぶことができました。

三つ目は、16人の留学メンバーと先生方の大切さです。16人のメンバーは、ほぼ初対面だったため、二週間も同じ部屋で過ごしたり行動したりするのかと思うととても不安でした。しかし、同じ授業を受け、同じ宿題をこなし、話し合ったり食材を買うなど、話す機会や協力する機会を重ねていくうちに、気付いたらいつでもそばにいる家族のような存在になっていました。ルームメンバーとは悩みも相談できるような仲になることができました。レポートグループのメンバーは、私が緊張したり足を引っ張ったりしても、いつでも優しく接してくれました。先生方は、私たちの成長を見守り、私たちの安全を第一に考えてくれました。「もっと勉強しておけばよかったなんて皆思っていることだから、質問したり、分からない単語を調べたりして、今この瞬間から学ぼうと努力をなさい」という先生のアドバイスは、とても印象に残っているし、今も大きな励みになっています。



これを読み、留学するかどうかを悩んでいる人がいるのなら、勇気を出して申し込んでください。このグアム研修は、勉強だけでなく様々な経験ができる貴重な留学です。私は、この留学を終えて、学びたいことや興味のあること、今やらなければいけないことを見つけられました。この夏、このような素晴らしい経験ができたことに心から感謝します。



個人レポート

経営システム工学科1年 翁像 哲也

このプログラムに応募した理由は、自分の語学力を向上させるという目的はもちろんのこと、自炊など海外における生活というものを詳しく知りたいという好奇心があったからです。私は高校2年生の時に修学旅行でマレーシアへ行ったことがあったため、海外経験は今回が初めてではありませんでした。ですがその時は朝昼夕と三食が提供され、期間もそれほど長くはなかったため、海外での生活がどのようなものなのかということはそれほど深く理解することはできませんでした。そのため今回は2週間という前回に比べれば一層長い期間である上、食事も朝と夕は自炊と、不安も多く抱いておりましたが、暮らしについてより理解を深めることができるのではないかと期待も抱いて臨むこととなりました。

語学研修は現地へと赴く前に、4つのテーマごとのグループに分かれ、学習するところから始まりました。私はFood Distribution(食品流通)について調査するグループに所属し、グアムの輸出入や普段スーパーに陳列されている商品の品揃えなど、人々の暮らしに密接に関わりあっていることを調べました。調査の中で事前に分かることは限られていて、現地に赴き実際に商品を手にとって知ることも多くありました。まずグアムにおける商品のおよそ90%は輸入品で、アメリカ本土などから海を渡って商品棚に並んでいるものが多いため、物価は日本と比べると総じて高く感じられました。一つ例を挙げるとすると、日本で売られているものと全く同じめんつゆを見かけたのですが、価格は7ドルほどと、日本で買うことができるおよそ倍の価格で売られていました。この事例は少し特殊であったのかもしれませんが、野菜など生鮮食品も日本で見るものよりどれも個人的には少し高いなと感じられる価格でした。

さらに個人的な話として、緑茶を買うときにはよく品定めした方が良いということを学びました。私は研修期間中、日本の緑茶が恋しくなりペットボトルの緑茶を購入したのですが、一口口にした途端その予想外の甘さに目を見開いてしまいました。よく確認してみれば「honey」の文字。日本産のペットボトルのお茶が高いからと海外産の緑茶を買おうと、この様に困ったことになってしまうのです。ちなみに私はこの失敗を3回繰り返しました。向こうの方々にとっては紅茶の様な位置づけなのだと、このような意外な場所でも日本との文化の違いを実感させられました。

最後に、グアムの方々はどうなともみな親切で、グループアクティビティやスポーツアクティビティなど、いつでも私達に対し親身になって接してくれました。この場を借りてお礼とさせていただきますと思います。語学研修の間に経験したことは、いずれも日本にいただけでは体験することのできない貴重なものばかりでした。この2週間は私にとって一生忘れることのない、大きな財産となるのだと確信しています。





新しく広がった自分の世界

経営システム工学科 1年 工藤 優之

今回のグアム語学研修では、たくさんのことを学び、体験することができた。

グアム語学研修に向かう前に行われたオリエンテーションで、グアムで宿泊する際の部屋のメンバーを決める時間があった。他の1年生は同じ部屋だったが、私だけ先輩方と同じ部屋だった。その時はうまくやっていたかどうかとても不安だったが、実際に同じ部屋で暮らし始めると、自然と絆が芽生えて、仕事も役割分担も4人でスムーズに行うことができた。1年生として、先輩方の足を引っ張らないよう、気を使うことができた。今まで話したこともなかった先輩方とルームシェアをして、普段あまり考えていなかった家事の細かいところまで考えられるようになったのは、先輩方のおかげだ。ただ同じ部屋に暮らしている人ではなく、2週間生活を共にする家族だったということに改めて感じた。

グアムにいた間はグアム大学に通学して、英語の勉強やグアムの環境・歴史などについて学ぶことができた。Conversation partners という時間が、グアム大学での学習の日程にあるのだが、その時間がグアム語学研修の中で最もモヤモヤした時間だったかもしれない。Conversation partners とは、グアム大学の学生達と4~5人ほどのグループを作り、挙げられた1つの社会問題について話し合うものだったが、もちろん英語でみんなが会話をする。私は英語が苦手で、相手が言いたいことを会話の中から聞こえてくる単語で察して、話を聞いていた。さらに私は、英語で会話をするときに文法がバラバラになってしまうので、知っている単語をつなげて話していたのだが、学校の授業中とは違って、それだけでは相手がうまく聞き取ってくれなく、話が進まなくてとても気まづくなってしまった。また、学生が話す言葉の中で1つも分からない単語があって、なかなかスムーズに話を進めることができなかった。この時間で、自分の未熟さを改めて知った。もっと英単語を覚えて、様々な場面でうまく使いこなせるように、少しずつ頭に入れていこうと思う。

語学研修の日程の中で、日本文化紹介プレゼンテーションというものがあり、私はその企画を担当していた。しかし、当初予定されていた日に合わせて、ゆっくりと準備を進めていたのだが、急遽日程が早まって急いで準備をすることとなった。しかし、そのような状況でも落ち着いて冷静に判断し、研修メンバーと力を合わせて買い物や下ごしらえ、パワーポイント作成、練習などを行い、無事に予定していた巻き寿司のプレゼンテーションを終えることができた。この際に、日本文化紹介プレゼンテーションのメンバーがパッと協力することができたのは、グアム語学研修の中で自然と絆が生まれていたからかもしれない。

このように、グアム語学研修では英語だけでなく、効率の良い仕事の進行方法、生活習慣、仲間の大切さ、責任感をいろいろな場面で学ぶことができる。少しでも興味があったり、自分の生活を見直したいと思っていれば参加してみて間違いはないと思う。





グアム語学研修個人レポート

経営システム工学科1年 西崎 椋大

今の自分の英語力でどこまで自分の伝えたいことを現地の人に伝えることができるのかを知りたいということと、海外の雰囲気を経験してみたいと思ったことが、私がこのグアム語学研修に参加した理由です。正直グアムに出発する前、自分が大学受験のために英語を結構勉強してある程度自分の伝えたいことは伝えられるだろうと軽い気持ちで考えていました。しかしグアムに到着し初めてグアム大学に行った日、自分の予想は簡単に裏切られました。まず、自分のリスニング力には少し不安な部分があるのは分かっていたのですが、現地の人と話しているとき自分の知っている英語の単語しか聞き取ることができず何回も聞き直したり、UOGの人が質問し自分がそれに答えてそれだけで会話が成立しあまり盛り上がらなかつたりと、少し申し訳ない気持ちでした。その他にも、もし自分の伝えたいことが伝わらなかつたらどうしようと不安に思い自分から話しかけることもできず、大学に通い始めて3日間は悔しく全然楽しくありませんでした。しかし、UOGの人たちが優しく気さくに話しかけて来てくれたりして徐々に不安もなくなって楽しいという気持ちが芽生えてきました。今改めて思うと本当に感謝の気持ちでいっぱいです。またパーティ後みんなで一週間の感想を言っていく集まりで同じ気持ちの人がいたりして気持ちが楽になっていきました。

グアムでは、大学で座学の授業を受けるだけではなくダンスや体育館でスポーツをするアクティブな活動をしたり、実際グアムの町に出て Historical Island Tour で歴史を感じることができたり、週末にはアウトレットや海に行ったりといろいろの貴重な体験をすることができました。その中で印象に残っているのは、Historical Island Tour です。このツアーの中で太平洋戦争博物館に行き、グアムが大宮島という名前がかつて日本の領土であったことを知り、そこで日本とグアムにつながりがあったことに驚かされ、展示品や動画を見たりして当時のグアムの状況であったり戦争の背景を知ることができ、戦争について考えさせられました。他にはUOGの人の話をききながらラッテストーンやスペイン広場、聖母マリア大聖堂などいろいろ周り、歴史を直接感じるすることができました。

私のグループワークはPollution (汚染) を調べました。グアムには、ゴミ焼却施設がなくそのままゴミが埋め立てられています。バスでレオパレスリゾートグアムに行く途中、大きなゴミ山 (Ordot-dump) が見え、グアムのゴミ問題の深刻さを知りました。何かの対策をすぐに打つことが必要だと思いました。

グアム語学研修に参加して、やはり自分の英語力がまだまだ未熟であることを一番思い知らされました。でもとにかくジェスチャーや表情を使いどんなふうにしてでも、相手に自分の気持ちを伝えることが大切なんだと言うことも学びました。二週間の経験は今までの中で一番記憶に残る出来事でした。このグアム研修で学んだこと、感じたことを糧にこれからの大学生活を送って行きたいと思います。

このグアム研修に行くことを許してくれた親、グアム大学の人たち、引率の先生、一緒にグアムに行ったメンバーに感謝しています。





グアム語学研修を終えて

経営システム工学科1年 矢崎 智史

私は海外の雰囲気を感じたい、自分の英語がどれだけ通用するのか知りたいと思い、今回のプログラムに参加しました。

UOGの学生とは昼食の時や英語の講義の時など、会話をする機会がたくさんありました。彼らは私たちに専攻分野や趣味など様々な話題を振ってくれ、会話を成り立たせてくれました。しかし私は質問の意味を理解し、知っている単語で答えることしかできませんでした。しっかり答えられているのか分からない上に、こちらからは質問できず、自分の英語力不足を痛感しました。会話を通して、言語の大切さを感じるとともに、コミュニケーションにおける表情やジェスチャーの大きな役割を実感することが出来ました。

課外活動として農園作業体験やビーチ、アイランドツアーなどがありました。その中で特に印象に残ったのは太平洋戦争記念館です。そこではアメリカの視点から戦争の悲惨さや出来事が詳しく紹介されていました。英語に加え日本語の訳もあったので、しっかり学ぶことが出来ました。やはり今まで習った日本の解釈と、やや違うところがありました。戦争に対するアメリカの考え方や姿勢を学ぶことができ、有意義な体験でした。またアイランドツアーでは戦争時に実際に使われた武器を見ることができ、戦争への理解が深まりました。

私はグループ研究で Food Distribution（食品流通）について調べました。グアムは食料の90パーセント以上を輸入に頼っているため、事前学習では僅かな情報しか集まりませんでした。そこで私たちはスーパーの様子や品揃えについて調べました。グアムのスーパーで売られている商品はほとんどが輸入品であるゆえ、やはり値段が高く、いかに日本のスーパーが素晴らしいかを知りました。またお菓子や調味料、カップ麺など、思っていたよりも日本の物が沢山ありました。スーパーには事前に調べてあった、ふじりんごが陳列されており驚きました。グループ研究は英語のレポートだったので、英語でのレポートの書き方を学ぶことができ、語学研修ならではの体験でした。UOGの学生や先生に添削してもらい、無事完成させることが出来ました。

グアムでは4人で1部屋の共同生活でした。私たちの部屋は全員1年生だったこともあり、気を遣うこともなく楽しく過ごせました。部屋でも研究レポートや英語の歌など常に英語に触れあうことが出来ました。

私は今回の語学研修プログラムに参加して本当に良かったです。2週間だけでしたが充実しており有意義で実りあるものでした。実際に海外に行ったことで、外国の印象や外国人の印象が私の中で大きく変わりました。それとともに日本の素晴らしさや誇れる点を再確認することができ、日本の新たな発見につながりました。この語学研修で得た経験を生かして、今後英語を学んでいきたいです。またこの貴重な体験をあらゆる形で将来へと繋げていきたいです。最後にUOGの学生や一緒に参加したメンバー、先生方、関わってくれた全ての人に感謝します。





海外留学を経験して

生物環境科学科 2年 鈴木 厚哉

多方面で刺激を受けた 2 週間であった。海外留学は今回が初めてだったが、最高の経験になったと思う。この体験を今後の大学生活に生かしていければと考える。

留学前に想定していた目標はおおむね達成できたのではないと思う。まずは、「英語のスピーキング能力の向上」。2 週間前よりも、積極的に英語を話そうという気持ちが強くなったと感じる。また、留学先のグアム大学での英語の授業や、様々な分野の講義を受ける中で、短いフレーズであれば場面に応じて言うことができるようになった。2 週間を通じて、まずは会話をしてみよう！と積極的に話した結果だと思う。しかし同時に、まだまだだなとも感じた。ああ言いたい、こう言いたいという思いはあるものの、なかなかそれを表現できないこともあった。自分が本当に言いたいことを英語で言うためには、今後も訓練していかなければいけない。

もう一つは、「友達をつくること」。グアム大学の学生の何人かと携帯の連絡先を交換するなど、良い関係を築くことができた。今後も様々な情報交換をしていくことができる。それと同時に、英語での連絡交換をすることで、さらなる向上につなげることもできる。今回の研修で終わりではなく、これからもつながっていきたいと思う。

日本とは全く異なる環境で生活してきたが、なによりもグアムは暑かった。日焼け止めを塗らないととても耐えきれない日差しだった。それもただ暑いだけでなく、蒸し暑さがあった。それなのに大学内や各施設はクーラーが効いていて寒い。慣れるまでかなりつらいものであった。こうした体験も留学ならではの体験だった。

とにかく蒸し暑かったグアムだったが、その分、外でのアクティビティは最高だった。1 週目の土曜日には、タモン地区のビーチに行き、引率のテリー先生の指導のもと、シュノーケリングを体験した。サンゴ礁がとても美しいビーチで、本当に良い体験をさせていただいた。個人的な旅行でもう一度行けたらと思うほどだった。

グアムの海は本当にきれいで、サンゴ礁も、そこに住む魚も美しかった。しかし、私はグアム大学での講義で、その美しい景色が失われていることを知った。

グアム大学の同じく 2 年生で、CIS(Center for Island Sustainability)のインターンシップで環境を破壊せずに資源を利用していこうとする活動に取り組んでいる学生の講義を聞いた。2 人によると、近年問題となっている地球温暖化の影響で、海水温が上昇し、サンゴの漂白化が生じている。それだけではなく、人間が捨てるゴミによって、ゴミに含まれているアレルギー成分等の影響で、サンゴが死滅してしまうという。このことは私にとって、大変衝撃であった。

グアムは戦後日本をメインターゲットとして、観光業に力を入れてきた。このことがサンゴ減少に少なからず関与しているはずである。このことを重く受け止めなければと感じた。

今回の研修は、すべてにおいてすごく貴重な体験になった。単に「語学留学」だけでなく、グアムについてたくさん学ぶことができた。当然、英語の勉強としても有意義な時間だったし、なにより楽しかった。心から今回のグアム留学に参加してよかったと思っている。グアム留学をしてみたいと考えている人は、とにかく挑戦してみべきだと思う。





グアム留学個人レポート

生物環境科学科 1年 佐々木 佳音

私は5歳くらいから英語で流暢に話すことに憧れていて、実際に英語圏の国に行って現地の方とコミュニケーションをとりたいという願望がありました。学生のうちに海外渡航を経験しておこうと考えていましたが、なかなか行けないまま高校を卒業してしまいました。大学に入ってこのプログラムを知り、「これが学生時代に海外に行くラストチャンスかもしれない」と思い今回の語学研修に参加しました。

今回私は、①普段会話するときに文法をなおざりにしがちなので、それを意識して会話をする、②日本と異なる文化を体験する、という二つの目標を持ってグアムに向かいました。実際にグアムの地を踏むと、初めての亜熱帯の気候で、植生も日本とは全く違って、チップの払い方やスーパーマーケットでの振る舞いの違いに戸惑ったりもして、今自分が異国の地にいるのだと実感しました。

グアム大学ではIFC (International Friendship Club) のメンバーとコミュニケーションをとる機会が多くありました。彼らのなかには日本語を勉強している人が沢山いて、フリータイムには私たちに積極的に日本語で話しかけてくれました。私もそれに負けまいと、つたない英語で会話をしようと試みましたが、話したい内容を自分が知る英語にしてから口に出すまでに時間がかかってしまい、ぎこちない会話ばかりしてしまいました。私は、自身が少しは英語で対話できるだろうと考えていましたが、それをはるかに上回る話せない状態に、自身の文法の弱さや、ボキャブラリーの少なさを痛感しました。

この留学が充実したものになったのは、丁寧に英語を教えてくれたグアム大学の方々だけでなく、研修メンバーによる影響も大きいと思っています。このメンバーは異文化に触れたい、英語を流暢に話せるようになりたいといった共通の目的を持って集いました。学校が終わり、宿泊場所に戻った後も、部屋のみinnでその日の授業を振り返る、疑問点を話し合うなどして、お互いを高めあいました。また、これからどんな国に行きたいとか、何語を学びたいなども語り合い、今後のモチベーションを高めることにもつながりました。同じ目的の下で学びあった二週間はとても密度の高いものになりました。

私はこの留学に参加して、英語以外にも、積極性の大切さや日本の素晴らしさなど、実際に海外に行かないとわからなかったであろうことを多く得ました。実際に現地で使われている言語

に触れることで、鍛えるべきところが判り、今後の語学学習への意欲が高まります。また、私たちが持っていないような積極性も、現地の学生から学ぶことができます。海外に興味があるけれど、まだ行ったことがないという皆さんにも、学生のうちに海外に行っておくことをおすすめします。

最後に、この研修でお世話になった多くの方々に、この場を借りて心から感謝申し上げます。





グアムでの時間

アグリビジネス学科3年 朝倉 みなみ

私は今回のグアム語学研修が初めての海外渡航経験となった。英語に触れる機会は学校での講義でしかなかった。しかし、伝えようとする意志や話そうとする努力はしようと考えていたので、言語の異なるグアムで2週間過ごすことに不安は全くと言っていいほどなかった。通学初日、グアム大学の先生である Ms.Evelyn との面談テストがあった。日本語は一切禁止、という約束のもと行われた面接で私は初めて自分の英語力の無さを嫌というほど痛感し、自信さえなくした。これから英語だけの生活に慣れる時が来るだろうかということで頭がいっぱいになった。

日本とは異なるアクティブな毎日の英語の講義や他のさまざまな講義を受けていく中で、自然と不安は消え、“この単語はどういう意味だろう”“発音は何だろう”“何と伝えればいだろう”という探求心、好奇心が増え非常に新鮮だった。そういう時に助けてくれたり、教えてくれたりしたのは Ms.Evelyn はもちろんだが、IFC(International Friendship Club)、Conversation Partner の存在があった。彼らと過ごす時間はとても濃く、貴重で忘れられないものになった。もともと人とコミュニケーションをとるのは好きだったが日本とは異なる彼らのコミュニケーション力や優しさに触れ、さらに人と接することの大切さや楽しさを改めて実感できた。積極的に話しかけたこと、自分のできるかぎりの英語で他愛のない話をしたこと、自分の名前をニックネームで覚えてくれたこと、ひとつひとつが記憶に残っている。彼らからは英語だけでなく、人として学ぶことも多かったと思う。

様々な講義の中でトリトンファームを訪れたこと、グアムの戦争に関する場所を訪れたことが特に印象深く残っている。私は大学で農業について学んでいる。農業の中でも野菜を専攻しているが、トリトンファームでは日本では不可能であろう栽培方法や異なる部分が多くあり、初めて見る技術や初めて聞く知恵がいい刺激になった。また、グアムの戦争の歴史を実際に現地で学べたことは貴重な経験となった。第2次世界大戦をはじめ、長期にわたって起きた多くの戦争は、日本側からの観点でのみ聞いてきたので、ひとつの戦争に対して2つの国の解釈に触れたことで、考え方が変わった部分もあり成長できる

きっかけになったのではないかと考える。アメリカ合衆国、グアム、日本の、3つの国旗が掲げられていたのを目にしたときは二度と戦争は起こしてはいけないと強く感じた。

今回のグアム語学研修のメンバーや現地の大学生とは帰国した後も交流が続いている。このつながりを大事にしていきたい。この経験はこれから私が生きていく中で大きな糧になるだろう。また英語力のさらなる向上を目指していきたい。この経験があるということを忘れずに大学生活のみにかかわらず、これから進んでいきたい。





グアム留学を終えて

アグリビジネス学科3年 角山 夏美

私がグアム留学に参加しようと思った理由は異なった環境の中でどれだけ自分ができるのかを試してみたいという思いからだ。日本を飛び立つ日が近づくにつれ、もちろん楽しみはあったがそれ以上に不安がどんどん増えていた。そんな不安の中グアムに降り立った。

初めて UOG の学生と触れ合ったとき、不安な気持ちはほぼなくなり、楽しみな気持ちが一気に膨らんだ。2週間を必ず充実したものにしてやろうと決意した。

2週間のグアムの生活で感じたことは大きくわけて2つある。1つ目は「伝え方」で、2つ目は「日本との違い」だ。

1つ目に関してだが、留学して最初にぶつかったのが言葉の壁だった。話したいことも聞きたいこともたくさんあるのに、それを英語で上手く表せない。自分の英語力の乏しさを痛感し、もどかしさ、悔しさを感じていた。この場を乗り切ろうと思って必死で話している自分がいた。しかし、1週間が過ぎてくると、会話が楽しい、もっと話したい、コミュニケーションをとりたいと思えるようになっていった。そう思えるようになったのは、自分が英語に慣れたというよりも、UOG の学生のおかげだったと思う。

UOG の学生は皆、優しかった。たくさん話しかけてくれて、たくさん笑ってくれた。綺麗な文法の英語を話さないといけないと思っていた私だったが、大切なのはそこではないと気づくことができた。そして、伝えたいことを伝え、聞きたいことを聞けるようになった。

2つ目に関してだが、気づくことがたくさんあった。まず、講義スタイルが日本とは違った。学生の反応のない講義はない。それはグアムでは当たり前のことで、日本のように学生の反応がないことはないのだ。日本生まれの教授が日本人は間違いを恐れていると話していた。この言葉を聞いた時、その通りだと感じ、一歩踏み出すことが大切であると思った。しかし、恥ずかしい気持ちが邪魔をした。恥ずかしいと思うのは日本特有の文化であり、グアム留学の中でも感じることは何回かあった。その度、悔しさを感じていた。一歩踏み出したいと何度も思っていた。その中で、チャモロマーケットでダンスに参加してみたことは、大きな一歩であったと思う。そして、それはとても楽しく、恥ずかしいことなんてひとつもなかった。

2週間のグアムでの生活は毎日が新鮮で、日本では感じることもない刺激がたくさんあった。2週間の生活が終わって、充実していたかと聞かれると、胸を張って、はい！と言える。2週間では正直足りない。まだまだたくさんのことを学びたいと思った。しかし、2週間グアムで過ごしたことは大きな自信につながった。この経験を今後活かしていきたいと思う。

また、グアムで出会った人たちにはもちろん、一緒に行ったメンバーからも多くのことを学んだので、感謝の気持ちでいっぱいです。





知らない文化を知ること

アグリビジネス学科2年 佐々木 佳奈子

私はもともと英語が得意ではなくずっと克服できずにいたのですが、大学で発音の **linking** について知ったことがきっかけで「日本で学んだ発音とネイティブの発音の違いを知りたい」と思い、この語学研修の参加を決意しました。

最初は初めての海外で不安でいっぱいでした。会話の中でわからない英単語が出てきたときにとっさの対応ができなかったり、うまく言いたい単語が出てこなかったりと、現地の人たちとの意思疎通がなかなかうまくいかずに落ち込むこともありましたが、しかし、**IFC(International Friendship Club)**の人をはじめとする現地の人たちの優しさに励まされ、あきらめず、積極的に話しかけることができました。

初めてグアム大学についたとき、**IFC** のみなさんが温かく迎えてくれたことを覚えています。私が単語を聞き取れなくても伝わるように何度も話してくれたり、簡単な単語に置き換えてくれたりと、会話がしやすいように工夫してくれたことがとても嬉しく、また情けなくもありました。大学の講義では、日常で使える英語の熟語や発音について学ぶことができました。日本では **b** や **v** などの発音について詳しく教えてもらえる機会がなかったため、聞き取り能力や発音の仕方を鍛えることができました。また、午後の講義ではグアムの歴史や環境問題、農業、文化などについて課外活動を交えて学びました。トリトン農場では魚の生け簀の水を作物の育成に役立てているということや、エコフィードの作り方を知り、また、博物館ではグアムの凄惨な歴史と当時の様子がありありと記されていました。どれも日本では見ることができない光景であり、自分の見解が広がったように思います。

建造物の他にも、公園やナイトマーケットといった場所へ行きました。公園ではラッテストーンという円錐に半球を乗せたような変わった形の石や防空壕を見て回り、ナイトマーケットではココナッツジュースや水牛乗り、有志のダンスなどの出し物があり日本との文化の違いを最も実感した場面でもありました。

今回の語学研修に参加するまで、グアムはただ漠然と景色や海がきれいな島という印象が強かったのですが、実際に行ったことで戦争による悲惨な歴史やゴミの処分の実態など、今まで知らなかった様々な側面について知ることができました。私たちの住んでいるグアムがただきれいな場所というだけでなく、どんな歴史があったのかをちゃんと知ってもらおうとする現地の人たちの姿勢が、この語学研修の中で強く印象に残っています。

私にとってこの二週間は本当にかげがえのない期間でした。

今回の研修を企画してくださった先生方、グアム大学の教授や **IFC** メンバー、同じグループで支えてくれた皆さんにはいくら感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。



チャモロナイトマーケット

チャモロナイトマーケットはチャモロビレッジで、毎週水曜日の夜に開催しています。

たくさんの観光客でにぎわっており、日本人客も多く見かけました。



本場のチャモロ文化に触れることができ、屋台がたくさんあるので、食べ物、服、雑貨など様々なものが買うことができます。



ココナツジュースは自然の甘みを感じられ、南国ならではの味わいでした。また、ココナツの刺身はイカの刺身のような味と食感でした。



カラフルなワンピースやアロハシャツが売られていました。日本語が話せる店員さんが親切で、気さくに話しかけてくれたので、買い物が楽しかったです。



お肉はアメリカンサイズで食べきれないほど大きかったです。プレートで販売されており、自分の好きな肉や野菜、魚などを選ぶことができ値段も安く、大満足でした。



これはプルメリアと呼ばれる花で、グアムのいたるところで見かけられます。とても良い香りで心が安らぎました。

また、チャモロナイトマーケットの中央に位置する建物内の広場では、日が暮れる頃に地元の人々と観光客とでダンスが行われます。



さらに、特別に現地の人からダンスの仕方を教えてもらいました。

ダンスは普段踊らないので慣れない動きで疲れましたが、とても楽しかったです。



日が暮れるにつれ、人も多くなり活気にあふれて、次第ににぎやかになっていくお祭りに心が弾みました。



このマーケットには本当にたくさんの屋台があり、どのお店の店員さんも気さくで、値引きに挑戦してみたり、世間話をしたりして、現地の方々と交流することができて貴重な体験ができました。

もしまたグアムに行く機会があったら、また訪れたいです。

課外活動グループレポート

Dededo Morning Market (朝市訪問)

尾形春香 佐々木佳奈子
鈴木順子 八島咲子

9月10日の日曜日、私たちはグアム大学へ通うよりも早い時間にホテルを出発し、デデドにある朝市へと向かいました。



朝市が開催されているデデドという地は、グアムで最も人口の多い村で、様々な人種が共に暮らしている活気ある地域で有名です。その活気を象徴するのが、毎週土、日曜日の早朝に開催されているこのフリーマーケット（朝市）です。

朝市ではバナナ、マンゴー、パパイヤなど南国でお馴染みの果実や、珍しい青果品（マンディオカ、カムティ、シガディザス）を売るお店、新鮮な魚介類、工芸品、衣料品などのお店が所狭しと並んでいました。

大きな広場のようなところで、人が5人程度並んで歩いても通れるくらいのスペースが設けられた通路の両側に、様々なお店のテントが建てられているといった様子でした。

果実や青果品→
気候が違うということもあって、日本では見られない食品が多く並べられていた。



↑ 衣料品

女性もののスカートが多かったが、男女ともに着られるようなTシャツが大量に安く売られているお店もあった。





↑魚介類

まだ動いている魚もいるくらい新鮮だった。

ローカル色の強いマーケットだったので、グアムに住む人たちの生活ぶりがとてもよくわかりました。

ここへ来て驚いたことは、早朝でありながら、売る側も買う側も元気で活気が溢れていたことです。グアムは1年を通して蒸し暑い気候ですが、早朝は比較的過ごしやすいため皆さん活動的だったのかもしれない。観光ではローカル生活に接する機会は少ないけれど、この朝市はそれを体験できる貴重な場だったと思います。

全体を通して見て、朝市の出店で一番多かったのはTシャツやアロハシャツ、パレオなどの衣料品です。次いで野菜や果物のお店、また、レコードやCD等の不用品や観賞用の淡水熱帯魚などを売るお店もありました。

地元のチャモロ料理を提供する屋台もあり、バーベキューなどの肉料理から、おかゆなどの食べやすい軽食まで、幅広く売られていました。その場でココナッツを削り割ってストローで飲ませてくれるココナッツジュースもありました。



↑チキンスープ（おかゆ）。

にんにくと生姜がきいているけれど優しい味で食べやすい。朝食にぴったり。

また、売り物は基本的にどれも安くお手頃な価格でした。

売っている現地の方々は、日本語を上手に話せる人が多く、私たちが英語での会話に困っていると日本語で説明してくれることもありました。忙しい中でも変わらず親切な方が多かったので、安心して回ることができました。



早起きして行く価値のある、楽しくパワーのある市場でした。またグアムに来た時にもぜひ行きたいと思います。

課外活動グループレポート

Historical Island Tour

角山夏実 朝倉みなみ 佐々木佳音 高橋瑞

【イナラハン天然プール】

イナラハン天然プールは、島の南東部に位置するイナラハン村にあります。海水の波や風によって岩が浸食し、溶岩によって海水がせき止められた自然によってできたプールです。飛び込み台があり、泳いでいる人もいました。高台があり、古い階段を登っていくと海が一望できました。



【ソレダット砦】

1565年頃より約250年間、スペインのガリオン船がメキシコのアカプルコからフィリピンのマニラまで毎年往復していました。ガリオン船が長い航海の途中で、唯一燃料・食糧補給のために停泊したのがウマタック湾です。スペイン人はウマタック湾に四つの要塞を築きました。そのひとつがここソレダット砦です。ここで広い海をながめ、歴史を感じました。



【アガット上陸海岸】

1944年7月21日、機関銃や迫撃砲の攻撃、そして燃え盛る水陸両用の車両の噴煙の中、何千もの米海軍隊がこの海岸線にたどりつきました。一方日本軍もここが敵の上陸地点だと予想し待ち構えていました。日本軍の砲撃を受けて、米軍は数時間もの間、前進を妨げられたのです。こんなにきれいな海で、激しい戦闘があったことが信じられませんでした。いまだに海底に武器が沈んでいることがあるそうです。明るい観光地のグアムには、戦争の深い爪痕が残っているのです。



【ラッテストーンパーク】

グアムがあるマリアナ諸島には、チャモロ文化というものがあります。その名残のひとつが、ラッテストーンと呼ばれる石柱です。「ハリギ」という柱身と、その上に乗る「タサ」というお椀状の石から成っています。どうやって乗せたのか、昔の技術に脱帽するばかりです。1100年から1700年にかけてチャモロ人によって築かれ、グアム、ロタ、テニアン、サイパン島でも発見されています。1m未満のものから6mにもなるものもあり、大きさはバラバラです。でも、どのラッテストーンも3~7個が平行に二列に並べられています。これらは建物を建設する際の基礎として使われていたと推測されていますが、真相は未だわかっていません。これらはスペインの入植とともに消えていきました。今回私たちが見たラッテストーンは、米軍がメポ村という所から移してきたものでした。堂々と立っていたラッテストーンは苔むして、歴史を感じました。



【スペイン広場】

ハガツニャ地区の中心地に位置し、スペイン時代にカサ・ゴビエルノと呼ばれていた総督のパレスがあった場所で、チョコレートハウスやキオスコなどが現存しています。チョコレートハウスは、典型的なスペイン建築を表し「マンポステリア」と呼ばれています。社交場として使われ、内壁につけられた2つの紋章は第2次世界大戦後総督邸跡の瓦礫の中から見つかったものです。キオスコは野外音楽堂を意味し、歴代知事の就任式や様々な公式行事に使用されている貴重な施設です。



課外活動 グループレポート

Cultural Beach Day

佐藤悠樹 鈴木厚哉
保井一樹 工藤優之

2016/9/16(Fri)



来たぜ！俺たちの Cultural Beach Day!!
Cultural Beach Day ではスタンドアップ・パドルサーフィン、カヤック体験、ヤシの木の葉を使った工芸品作り、ココナッツキャンディー作りをしました。また、ビーチバレーやバスケットをしました。



スタンドアップ・パドルサーフィンは初めての体験でした。ボードにバランスを保ちながら立ってパドルを漕いで進みます。速度は遅めでカヤックより遅く進みます。体全体を使うので体も鍛えられると思います。カヤックは一人乗りと二人乗りがありました。

ヤシの木の葉を使った工芸品作りでは、蛇、魚、髪飾りを作りました。作り方は折り紙のような作り方でした。UOGの学生は、器用に折り曲げていました。蛇も魚も見ればわかるので面白かったです。



ビーチバレー、バスケではUOGの人と一緒に交流を深めていきました。言語が上手く通じなくても仲良く楽しむことができ、スポーツのよさに改めて気がつきました。

バーベキューでは肉が多目の料理でした。味もおいしかったです。

グアムの海、食品、文化を体験でき、非常に有意義な時間が過ごせました。

ココナッツキャンディー作りでは、はじめにココナッツの皮を剥きます。皮はすごく硬くて専用の道具を用いて剥きます。その後二つに割り、中身を削っていきます。削った中身を炒めて砂糖で味付けをして食べます。

